

和合

No.113

2016. 10. 20

題字：三浦修次



“みんなでざっこしめ”（和合の里ふれあい交流事業）でのひとコマ

主な掲載記事

おらほの民俗行事	2
むかしあそび	2
おっきぐなれの～	3
こんにちは！保健師です	4
畑からこんにちは	4

亀治からのメッセージ	5
よつばっこ通信	6
こうなってほしちゃ	6
健康レシピ	7
わごう交番	7
地域インフォメーション	8

おらほの民俗行事 [No.10]



▲ 大太鼓に合わせ、数珠を廻す百万遍の様子

“ナーマイ、ダンプ”^{なむあみ}（南無阿弥^{だぶつ}陀佛）を唱えながら、大太鼓に合わせ、大きな数珠^{じゆず}をみんなで廻します。村の人々の無病息災を祈りながら、現在も行われている当部落の唯一といえる民俗行事が「百万遍（ひゃくまんべ）」です。以前は神社で行われていました

の念佛講員のご婦人方が春（3月初旬）と秋（11月初旬）の2回行っています。

講をつくって、かつて行われていたものには、古峯ヶ原講（こぶがはらこう）」における代参者を火難除けの祈願に派遣したり、「山参り」や「庚申講（こうしん

ナーマイダンプ、 ナーマイダンプ

前赤渕新田部落会長 荒木^{かずひろ} 一博 氏

が、現在は公民館で行われ、村内有志

こう）」などがありました。

他には、御神体があり、今でも正月元旦の祝賀会席上で拝礼のみ行われているのが「さいど（塞道）神」です。男女二体が現存しており、昔、男子だけで行われていた思い出話がはずみます。

少子化と高齢化により、神社を中心としたこうした行事が少なくなりつつあるのは残念です。

むかしあそび 赤とんぼしめ

秋の赤とんぼの飛ぶころ、人差し指を立てて、「この指とまれ」と言いながら、とんぼが人差し指に止まると親指を人差し指に寄せて、とんぼの足を押さえて捕まえた。とんぼがいっぱい飛んでいても指に止めるのは至難の技であった。



くり拾い

風がある日、学校から帰ってくると仲間とくり拾いに行った。拾い終わると拾ったくりを全部出し合い、大きいくりから順に取り公平に分けた。帰りは、皮と渋をとった生ぐりを食べながら歩いた。

風がある日、学校から帰ってくると仲間とくり拾

いなごしめ

いなごしめは、子どもの遊びでもあり仕事でもあった。

いなごを入れる袋は手ぬぐいで作り、いなごを入れる口は竹をつけて、そこから入れた。

終戦後の食料不足、栄養不足でいなごは重要な栄養の確保でもあった。

学校の先生は、いなご3匹食べると卵1個分の栄養があると教えてくれた。中学校では、秋になると2回の“いなごしめ”があり、ゆでたいなごを販売して図書の本の購入にあてていた。学校のいなごしめは、多く捕まえた生徒に賞があった。

昭和20年代～、当時の子ども達はどんな遊びをしていたのか…遊び道具の少ない時代、創意工夫された懐かしい遊びを紹介

長南一美氏[ダン風物語記念館 館長]

はやい、あきぐなれめ～



- ① 花が咲いているような可愛い笑顔でいてほしいという思いからつけました。
- ② お兄ちゃんの遊んでいるおもちゃ
- ③ 「上林咲絢ちゃん」と呼ぶと「アーイ」と返事をする事。
- ④ ご飯のあと、ミルクを100cc飲ませるつもりが200cc作ってしまい、飲み干してしまったこと。
- ⑤ お兄ちゃんと仲良く遊んで元気にすくすく育ってね。

さや
上林 咲絢 ちゃん（大真木）
平成27年10月7日生まれ
パパ：広伸 / ママ：美佳

パパ・ママにインタビュー

- ① 名前の由来は？
- ② 今一番の興味やハマっている遊びは？
- ③ 最近のエピソードは？
- ④ パパママの失敗談（子育てあるある!）
- ⑤ パパママからのメッセージ



- ① 色彩豊かな人生を歩んでほしい。たくさんの人から愛される人になってほしい。
- ② アンパンマンのジャングルジムで遊ぶ。
- ③ 「お出かけするよ。」と言うと高速ハイハイで寄ってきて、手を上げて抱っこポーズ。
- ④ ほんの少しのすきに階段を5段目まで登っていて驚いた（焦った…）。
- ⑤ 少し小さく生まれた楓翔へ
元気にたくましく成長してね。

ふうが
上林 楓翔 くん（大真木）
平成27年10月15日生まれ
パパ：利行 / ママ：さとみ



こんにちは！
保健師です。



第四学区担当
あっこ
石川 丁子

10月は「がん検診受診率50%達成に向けた 集中キャンペーン月間」です。

日本人の2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで亡くなっています。
がん検診を定期的に受け、早期発見、早期治療に努めましょう。

庄内町のがん検診は無料！

▶子宮頸がん検診は20歳から
▶肺・胃・大腸・前立腺・乳がん検診は40歳から
問い合わせ Tel 42-0147

庄内町の現状

▶死亡者の原因

- 1位 がん
- 2位 脳血管疾患
- 3位 心疾患

※山形県保健福祉年報
H24年年次別
10大死因及び率
(人口10万対)より

▶がん死亡者の部位

- 1位 胃がん
- 2位 気管・肺がん
- 3位 大腸がん

※山形県保健福祉年報
H24年部位別
がん死亡率
(人口10万対)より

がんを予防するために

◎生活習慣を見直し、『がんを防ぐための 新12
か条』に取り組みましょう。

◎がん検診を定期的に受け、がん検診精密検査を
最後まで受けましょう。

がんを防ぐための新12か条

～あなたの生活スタイルを見直して、がんを予防しましょう～

- 1条 たばこは吸わない
- 2条 他人のたばこの煙を避ける
- 3条 お酒はほどほどに
- 4条 バランスのとれた食生活を
- 5条 塩辛い食品は控えめに
- 6条 野菜や果物は豊富に
- 7条 適度に運動
- 8条 適切な体重維持
- 9条 ウイルスや細菌の感染予防と治療
- 10条 定期的ながん検診を
- 11条 身体の異常に気がいたら、すぐに受診を
- 12条 正しいがん情報でがんを知ることから

畑からこんにちは

今回、お邪魔した大沼松雄さんの畑は、以前苗代だった田んぼを利用し、近くの水路から畑に水が行き渡るようにホースで工夫し、たくさんの野菜を育てていました。



まつお
大沼 松雄さん
(西袋)

定年後に本格的に畑をするようになり、始めたころは、畑仕事の先輩である奥さんが先生でしたが、25年たった今では松雄さんが教える側になり、立場が逆転。

今年は、2本ずつ植えたキュウリとスイカの出来が特によかったそうです。キュウリは

支柱を立てず、^{つる}弦を土に^は這わせてのびのび栽培するのが松雄さん流。どちらもたくさん実り9月中旬まで収穫できたとのこと。さつまいももいつもより^{うねはば}畝巾を広くし栽培したところ、ビッグサイズに成長したと驚いていました。

手塩にかけ育て収穫した野菜をストックしている倉を見せてもらおうと、松雄さん手作りの金網張りでキャスター付きの大きな棚があり、イモ類やカボチャなどたくさんの野菜が収納してありました。この棚は、製作中に「何作ったなや？」というお孫さんの友達の質問に「熊のおりだ」と冗談で答えたことから、家族内では「熊のおり」と呼んでいるそうです。

「気が向いた時にしている」と謙遜しながら話す松雄さんは、80半ばという年齢を感じさせず、はつらつとしていました。

亀治からのメッセージ なつかしい風景 ～ちょこっとおかしな農業～

晩秋に稲株整然と白鳥啄む落穂ひとつない静かな昔

稲揚げ



10月は、稲がすっかり刈り取られ「稲返し」（杭に掛けてある稲を上下反転する作業）も終わると、天気を見て稲揚げをする。

田んぼの畦で杭掛けの稲20把（二束）を「つなぎ」でまるき（穂を中に包み込んで束ねる）、稲束を背負う道具「瘦馬」や荷縄を使って農道まで運ぶ人、荷車や牛や馬車で家まで運ぶ人といった流れでの稲揚げであった。

当然、春の田植えと同じく、米づくり農家は多忙を極めることから家族総出、力を結集しての収穫作業であり、小学校高学年になった農家の子弟は早退や休校願いを学校に提出して、大人といっしょになって稲揚げ作業に汗を流したものである。ちなみに、子供用の瘦馬もしっかりと準備されていて、子供でも立派な働き手としてあてにされた。

昔は、稲倉が小さいので倉が満杯になると、屋敷に「にお」を積み上げた。にお積みは、晴天の日を選んで、5～6反分の稲を丸く円すい型に積み上げる技術は、熟練したおどな（大人）しかできなかった。こうして無事稲揚げが終われば「刈り上げ」同様に餅などをつき、隣近所・親類縁者にも配り、「背負い揚げ」が盛大に行われた。



▲ オバちゃんもオンちゃんも、ガガちゃんも瘦馬で稲運び。
ダダちゃんとアンちゃんは荷馬車に縄掛け、
ええッ、ええッ声も弾む。

「目で見る 庄内農業史」より

脱穀調整

明治から大正時代は、千歯による脱穀作業であったが、昭和になると

「足踏式回転脱穀機」が普及し、作業効率が一段とよくなった。作業場も現在のような独立した立派な施設はなく、大体が母屋の「にわ」で米調整をしていた。

脱穀した籾は一旦、籾俵などに入れて保存し、次に調整作業・籾摺りが行われた。籾摺りも木製の道具を使って打つ方法から石臼を回転させて挽く手法に、また、昭和14～15年ごろには高圧電気が引かれて、動力脱穀機やゴムロールを使った動力による籾摺機が導入され、米づくりも人力から動力へと機械化され「生まれ変わったようだ。重労働から解放された」と、当時の喜びが伝えられている。



俵結い

11月は、稲揚げ作業もすっかり終わり、もっぱら米の調整作業である。

籾摺りされた粗玄米を唐箕や万石にかけ、精選して検査に合格する玄米に仕上げ「俵」に入れ、縄で固く結ぶ作業を「俵結い」といって、熟練と重労働を要したことからおどな（大人）の仕事とされていた。

一俵4斗（60^{キロ}）と大変重かったが、当時のおどな衆は俵専用の「カギ」などを使って一人で軽々と肩に担いで馬車や倉庫に積み重ねていった。

松浦一字氏 [資料館運営協議会委員]



亀ノ尾の里資料館

稲揚げ、脱穀調整、俵結いで使われた道具を現在展示中。
11月6日（日）に開催される「和合の里秋まつり」では、
千歯こき体験、縄ない体験を行います。
みなさんのお越しをお待ちしております。

第四幼稚園 よつぱつこ通信

お米になりました！

5月に年長組さんが植えた苗が、お日様の光を浴びて、とっても大きくなりました。

年長さん達が自分達で看板を作って、田んぼに行ったり、“大きくなったかなー”と時々見に行ったりして、ずっと楽しみにしていました。「先生！稲がぐーんと、お辞儀したら、稲刈りできるんだよね？」とお家の人達との温かい会話もうかがえるような嬉しい言葉も聞きながら、待つ事5か月・・・。

待ちに待った稲刈り！！小さい組さん達もいっしょに田んぼへ



▲ コンバインにくぎ付けの子ども達

レッツゴー！「うわー！大きくなったー」「こんにちわって、お辞儀してるね！」「固いよ！触ってみて！」「ホントだー」と大歓声！

コンバインでみるみる刈られている様子を「こんなに近くで見たの初めて！」と、じっと見つめていた子ども達・・・。

「早く、おにぎりパーティーして食べたいね。」と、わくわくして帰ってきました！ご飯だーいすき♡



第四小学校

6年生のみんなが願う『和合の里』の未来像 こうなってほしいちゃ 和合の里



いろいろな人が明るく笑顔でくらせるような和合の里になってほしい。

岩城 しょう (南野)



みんな元気が良くて、仲のいい楽しい和合の里にして、みんなが過ごしやすい、安全でたくさんの自慢ができるようにしたいです。

土田 萌葉 (廻館)



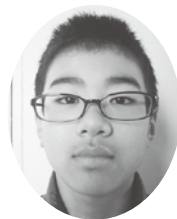
ぼくは、和合の里にみんなが笑顔で、やさしくて、自然を大切にして、自然が豊かな和合の里になってほしいです。

高橋 ゆう (本小野方)



私は、みんなが元気で楽しい四小学区になってほしいし、四小はあいさつが自慢なので、あいさつで和合の里が有名になってほしい。

渡部 優利 (吉方)



活気があふれ、伝統を守り、地域行事や歴史、そして、どこまでも続いていそうな田んぼ、そんな風景が末永く続けばいいと思います。

疋田 公平 (小出新田)

健康ししぴ

材料(5人分)

鶏肉一人 100g
・・・5切
酒・・・大さじ1

A

白すりゴマ・・・150g
ねぎ・・・1本(粗みじん)
しょうが・・・小さじ1
みそ・・・70g
しょうゆ・・・大さじ2
酒・・・大さじ1
砂糖・・・80g
片栗粉・・・少々

作り方

- ① 鶏肉に酒をふっておく。
蒸し器で10～15分加熱する。
- ② Aの材料を混ぜ合わせ、鶏肉にかける。

超簡単♪ 蒸して、混ぜてかけるだけ！
蒸し鶏ゴマソースかけ



▲ 写真のつけ合せは「マカロニサラダ」です。

ひとくちメモ

ヘルシーでおいしい鶏肉の魅力 注目される栄養素が豊富な鶏肉は「病人の滋養食」と言われるほど。

たんぱく質…人間には不可欠な栄養素

メチオン(必須アミノ酸)…肝機能を上げたり脂肪肝を予防する効果あり

コラーゲン…美肌効果だけでなく白内障・老眼・関節痛などの予防にも効果あり 「鶏肉ランドHP」より

わごう交番

薄暮時の交通事故防止

例年10月以降に交通死亡事故が増加する傾向があります。

交通事故防止のポイント3点

1. 横断中の二度確認

道路横断中に死亡した高齢者のうち、約7割が左から進行してきた自動車との衝突でした。

横断前と横断中の2度安全確認で事故に遭わないようにしましょう。



横断中も
もう一度左右を確認！

2. 夜光反射材の着用

夜間に道路横断中の高齢死者の約9割が夜光反射材を着用していませんでした。夜光反射材は、自動車に自分の存在を知らせるのに有効です。夕方以降の外出時は必ず着用を！



反射材が
夜のあなたを守ります

3. 早めのライト点灯とハイビームの積極活用

早めのライト点灯は歩行者の早期発見だけでなく、相手に自動車の存在を知らせることもできます。

ハイビームにすると約100m先まで照らすことができ、さらに早く発見することができます。

早めのライト点灯で
早期発見、事故防止

40年の節目…そして、新たな一步を

8月31日、余目第四小学校創立40周年記念式典が町長はじめ、日ごろからお世話になっている方々に見守られながら、行われました。校長先生の式辞、町長の祝辞に続いて、児童代表の齋藤愛花さん(6年)がお祝いの言葉を述べました(写真)。最後に佐藤花奈佳さん(6年)の伴奏で「時の扉」を全校児童で合唱しました。会場の体育館には、40周年を記念として製作された紅白幕が張られ、児童と来賓にはお祝いの紅白餅と航空写真の載った下敷きが配られました。

地域の方々の教育に対する熱い思いが込められた伝統の言葉「三愛精神(人を愛し、物を愛し、学問を愛する)」が今年4月に校訓となりました。この校訓を基にこれからの四小の歴史を刻んで進んでいくことを期待します。



「交通安全・あいさつ・環境」地域啓発標語 各賞が決まりました!!



▲ 優秀賞以上の標語は、第四公民館前に掲示してあります。

2年生の工藤千智さん(古閑)の交通安全標語が最優秀賞を受賞
(写真: 右から2番目)

このほど、第四小学校の児童を対象に下記のテーマの地域啓発標語の募集を行いました。

- 1, 2年生: 交通事故のない地域(町)づくり
- 3, 4年生: 明るく元気な地域(町)づくり
- 5, 6年生: 自然環境を守り、未来へ引継ぐことのできる地域(町)づくり

応募総数164点の中から最優秀、優秀賞(5点)、佳作(3点)が決定しました。

表彰は、11月6日(日)の和合の里秋まつり「演芸フェスティバル」の中で行います。

編集後記

季節は、もうすっかり秋。周りの景色も日に日に秋色が深くなっている。日本中がリオ五輪を熱く応援した日々がずいぶん前の出来事のように思え、暑かった夏が懐かしい。年を重ねるごとに春夏秋冬一年があっという間に目の前を駆け抜けているように感じる。目まぐるし

い毎日を過ごしながら、当情報誌「和合」の編集をとおして、季節ごとの地域内の話題や歩んできた歴史にふれ、通り過ぎようとしている時間に気付かされ、また、実感している。

それにしても、時の流れの早いこと、早いこと…。

余目第四公民館
亀ノ尾の里資料館

11月15日(火)

全館清掃日で午後5時からの開館になります。ご協力をお願いします。